



ProAtlas XD

番地号レベルまでの詳細な検索が行なえるGIS開発キット

田辺 恒雄
TANABE, Tsuneo

問合せ 株式会社アルプス社

TEL 03-5402-8766 URL <http://www.alpsmap.jp/>

FAX 03-3433-4366 MAIL proatlasxd@alpsmap.co.jp

動作OS Windows 98/NT4.0/2000/XP 対応開発環境 Visual Basic 5.0/6.0、Visual C++ 5.0/6.0

備考 地図データは別売り（都道府県ごとに購入可） 価格 要問合せ

はじめに

従来、コンピュータ上で空間情報を扱う地図応用ソフトは統一的なデータフォーマットがなく、それぞれのGIS (Geographic Information Systems) エンジンが扱うデータの形式はシステムによって異なっていました。緯度、経度そして標高といった明確な基準をもつ対象を扱うにもかかわらず、そのデータの表現方法や処理方法は、独自仕様が乱立しているのが現状です。

しかし、インターネットの普及に伴ない、世間の流れはグローバル化、オープン化、そしてスタンダード化に向かっていきます。異なるシステム間でのデータ交換手法としてXMLが主流となりつつあり、最近では多くのアプリケーションがXMLに対応しています。

空間情報を扱うGISも例外ではありません。1994年にISO^[注1]は、地理情報の標準化に関する専門委員会「ISO/TC211」を発足しました。これに合わせて、国内でも産官学が一体となった地理情報の標準化の取り組みが始まり

ました。

国内では、1998年に空間データ表現のためのXML文章のフォーマット「G-XML」を基本に、空間情報標準化のための「G-XMLプロジェクト」が始動しています。政府では、GISの普及のための長期計画を1996年に打ち出していますが、GIS利用のための基盤環境整備の具体的な取り組み計画として、本年2月に「GISアクションプログラム2002-2005」を決定しました。この中では、国や地方公共団体が率先してGISを活用してゆくこと、国際標準としてG-XMLを提案してゆくことなどが定められています。

一方、海外に目を向けると、アメリカの民間非営利団体OGC (Open GIS Consortium) が、米軍の開発した空間データの相互利用技術を民間転用して発展させた「GML」という規格が存在しています。現状ではG-XMLとGMLとの間に互換性はありません。国際的に見るとダブルスタンダードの状況になっています。国際標準化 (ISO規格化) を目指し、現在G-XML/GML国際統合版への調整と開発が進められています。

国土地理院のWebサイトには、XML形式の空間データ基盤サンプルデータとビューアが試験的に公開されています。データ量が膨大となる地図を、テキストベースであるXMLによって実用的に処理するためには、解決すべき技術上の課題が数多く残されているようです。

応用範囲が広いGISで扱うデータが共通フォーマットをもつことは、大変意義深いことです。既存のGISアプリケーションの対応も含めて、電子地図の今後の動向に注目してゆく必要があるでしょう。

以上のように大きな流れの中にあるGIS開発ツールのうち、今回ご紹介するのは地図アプリケーション開発キットProAtlas XDです。

ProAtlas XDについて

ProAtlas XDは、その名のとおりに、地図出版の老舗である株式会社アルプス社が発売している電子地図プロアトラスシリーズに準拠した、地図応用アプリケーションのための開発キットです。

本誌2000年5月号のこのコーナーで紹介した「ProAtlas開発キット」の上位製品にあたり、主な特徴には表1のようなものがあります。ProAtlas開発キットと比較すると、ProAtlas XDは地点検索機能と図形オブジェクト処理が強化されたものとなっています。

ProAtlas XDを使って開発したプログ

注1) International Organization for Standardizationの略。国際標準化機構。

本稿で使用した環境

O S | Windows XP Professional
C P U | Pentium4 2GHz
メモリ | 1GB
開発環境 | Visual Basic 6.0 Enterprise Edition (SP5)

